1版

様 式 F-7-1

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実施状況報告書(研究実施状況報告書)(令和元年度)

			機関番号	9 2 1 0 3		
所属研究	機関名称	日本工営株式会社中央研究所				
TII chin	部局	先端研究開発センター				
研究 代表者	職	研究員				
	氏名	林 亮太				
1 . 研究種	目名	基盤研究(C)(一般) 2 .	課題番号	19K04683		
3.研究課題名		生態系復元モデルの構築:屋久島をモデルとした国内外来種の水圏生態系への影響	髪の解明			
4.補助事	業期間	令和元年度~令和3年度				
5 . 研究実績の概要						
平成31年度は、鹿児島県屋久島における環境DNA採水地点の決定のため、5月、9月、12月の3回の予備調査を行った。2回目以降の調査では、従来のシリンジによる手作業のろ過でなく、モバイルポンプを用いたろ過を行い、よりコンタミリスクの少ない調査プロトコルを確立できた。また、各採水地点での水生昆						
虫採集も行った。 環境DNA解析については着手できていないものの、水生昆虫の分布調査については既にアメンボ類、ヒメドロムシ類を対象とした成果が出ている。今後は他の 分類群についても同定を進め、在来生態系の残る河川と国内外来種が侵入した河川とで、より詳細な生物相の比較を行っていく。						
77 XX 11+ IC 7 V		たって、正元工のボッパのグバルで向けい「水柱の区グノログバルでき、あり計画は工物相の比較で1]フ				
6. +-5	リード					
環境DNA	屋久島 国	内外来種 水生昆虫				
7.現在ま						
区分 (2 理由) おおむねル	頁調に進展している。				
埋田 予定通りの調査を実施することができている。						

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

_8 . 今後の研究の推進方策	
採水した予備調査サンプルの解析を行い、次年度以降の調査地点を絞っていく。	
9 . 次年度使用が生じた理由と使用計画	
次年度使用額が無いため、記入しない。	
10.研究発表(令和元年度の研究成果)	
_ 〔雑誌論文〕 計3件(うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件)	
1.著者名 林 亮太,日比野友亮,田中颯,中島淳,神保宇嗣,熊澤辰徳	4.巻 7
怀 克太,口比到汉克,田中观,中岛序,怦床于嗣,庶泽成他 	'
2.論文標題	5 . 発行年
『ニッチェ・ライフ』における生物多様性情報の共有の試み. 	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
ニッチェ・ライフ	1-4
	本共の大畑
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 松島良介,林 亮太	4.巻 7
2 . 論文標題 屋久島のアメンボ類	5 . 発行年
	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ニッチェ・ライフ	43-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
掲載調文のDOT(デンタルオフシェクト画別士) なし	宜祝の有無 無
	国際共革

オープンアクセスとしている(また、その予定である)

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

1版

1.著者名	4 . 巻
林 亮太,中島淳	7
2.論文標題	5.発行年
屋久島のヒメドロムシ類	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ニッチェ・ライフ	46-48
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

11.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件(うち出願0件/うち取得0件)

12.科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

13.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

_

14. 備考

-